

福井県優良図書

令和7年10月分

○中国のフェアリー・テール
ローレンス・ハウスマン // 作 松岡享子 // 訳
【小学校高学年～】



福音館書店 ¥1,870 円（税込み）

ティキ・プーは大きな画塾で下働きをしている少年ですが、魂の奥底には誰よりも芸術への想いが熱く燃えていました。画塾の壁には三百年前に生きていた大家ウイ・ウォニの絵作品がかかっていました。「ウイ・ウォニ先生に教わりたい」という強い思いが通じとうとうある夜、絵の中から老画家が現れ彼を絵の中へ招き入れます。絵を描きたいという強い思いを持つ貧しい少年と、はるか昔に世を去った偉大な画家との時を超えた不思議な交流を描いたこの本は文章からあふれ出る色彩と浮遊感のある物語のおもしろさをこどもたちに味わってもらいたいです。

○たい焼き総選挙
新井けいこ // 作 いちろう // 絵
【小学校高学年～】



あかね書房 ¥1,430（税込み）

拓都は商店街のたい焼きが大好き。お店が休業になることを聞き、お店のピンチにチームを結成して乗りだします。その中でお金をかせぐことの難しさ、食品ロスの問題、統計をすることの大切さがわかりました。アンケートをきっかけにお客さんとのコミュニケーションも取れるようになり、たくさんの人と知り合いになりました。一つのことを突き詰めていくことで興味の幅も広がり、一つの関門をくぐれば次の活路に通じます。体験は成長の糧と言えます。主人公はたい焼き屋さんを通して社会を知り、将来の自分を想像するのが楽しくなってきました。

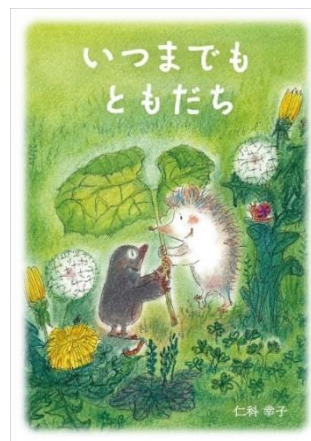
○ミツツボアリをもとめて
アボリジニ家族との旅
今森光彦 // 文・写真
【小学校高学年～】



偕成社 ¥1,760（税込み）

オーストラリアの砂漠で先住民の家族とともにミツツボアリを探す旅を、圧巻の写真でたどる一冊である。食や衣、暮らしの違いに驚かされつつ、写真から伝わる人々の笑顔から幸福感が伝わる。読書が得意でない児童生徒にも勧めやすく、理科や地理の学習にも生かすことができると考える。

○いつまでもともだち
仁科幸子 // 作・絵
【幼児～】



偕成社 ¥1,650（税込み）

ハリネズミとモグラが会って友達になり、一方が老いて亡くなり、一方が見送る話です。互いを知らず、一方的な誤解に基づいて理解しようとはしますが、理解が深まるほどに、お互いを大切にしたい、喜ばせたい気持ちがふくまれます。モグラは、視力がないけれど、ハリネズミは美しい風景を共有したいと願い、それがかなわないことと知ります。一方モグラは触れることや特に匂いによって、世界を深く受け止める様子が語られます。多様性を尊重する体験感情を、この物語は教えてくれていると思いました。死との向き合い方も語られています。

○おはなしはどこからきたの?南アフリカのむかしばなし
さくまゆみこ // 文 保立葉菜 // 絵
【小学生(低学年)~】



BL 出版 ¥1,980 (税込み)

こどもたちからおはなしを聞かせてと言われたお母さんマンザンダバは、村人たちに聞いてもだれも知りません。そこでマンザンダバはこどもたちの願いを叶えるため、おはなしを探す旅に出かけます。マンザンダバが海の深い底の宮殿で出合った王と王妃に、自分たちが暮らす様子を木彫りで教える展開から、アフリカの暮らしが見えてきます。また、挿絵が色彩鮮やかでやさしい風合いでアフリカの暮らしや、人々の装飾も楽しむことができます。

本を閉じた後…貝がらをそつと耳にあててみたくなります。

○それゆけ!ばあちゃんぐんだん!
ジュディス・カー // 作 木坂涼 // 訳
【幼児~】



好学社 ¥1,870 (税込み)

みんな自分の特技をもっている「ばあちゃん軍団」は、一番若くても 82 歳!

ある日、気球に乗っていたメイヴィスばあちゃんがどろぼうを発見します。すぐに仲間が集まり、それぞれの特技を生かして、どろぼうを退治してしまう…そんな痛快で愉快な物語となっています。優しい絵とユーモアあふれる展開に、だれもが笑顔もらえる楽しい絵本です。

身近な存在である「おばあちゃん」が主人公であることで親しみやすさもあり、こどもから大人まで一緒に楽しめる作品だと感じました。

○巨石運搬!海をこえて大阪城へ
鎌田歩 // 作
【幼児~】



アリス館 ¥1,760 (税込み)

大阪城の石垣を作るために、瀬戸内海の島から、大きな石が切り出され、運ばれていく様子が描かれています。

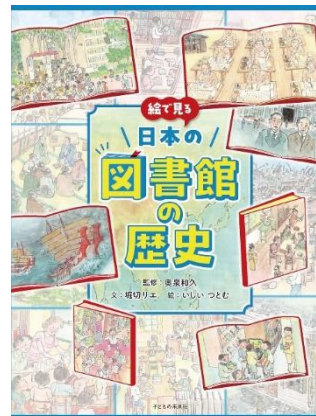
大人でも、こんな風に石を切り出すのか、こんな風に船に石を乗せるのかと、興味深く読むことができます。

また、石工たちの目利きの様子、たくさんの石工たち一人ひとりの確実な作業が協力的に行われ、大きな石の切り出しに至るところは、読んでいてわくわくします。

たくさんの人達の丁寧な仕事により、大きな城が築かれたことがよくわかり、お城を見るときの注目点が増えそうです。

○絵で見る日本の図書館の歴史

奥泉和久 // 監修 堀切リエ // 文 いしいつとむ // 絵
【小学生(高学年)~】



子どもの未来社 ¥3,300 (税込み)

本書は、図書館の成り立ちと変遷を豊富な図版と絵を通してわかりやすく描いた一冊です。

文字の誕生や紙の発明から始まり、図書館の前身ともいえる施設から、近代的な図書館が導入されて現代に至るまで、図書館がどのように変化してきたのかを丁寧に追っています。

普段利用している図書館がどんな場所なのかを知ること、これまでとは違った視点で図書館を見ることができそうです。

あらためて「図書館とは何か」を考えてみる良い機会となり、こどもたちが公共施設の意義を学ぶきっかけを与えてくれます。

○子ねずみウォルターはのんびりや
マージョリー・フラック // 作・絵
おびかゆうこ // 訳
【小学生（高学年）】



徳間書店 ¥1,760（税込み）

のんびりやの子ねずみ・ウォルターは失敗もありますが、自分らしさを大切にしながら工夫して成長します。仲間に受け入れられ、自分らしく生きることや勇気をもつことの大切さ、ちがいを認め合うことで互いを尊重する心などを学んでいきます。たくさんの人と接する中で、自分らしく、またちがいを認め合うことは大切だと感じさせてくれるお話です。

○ここは、ようかいチビッコえん
ヒュードロ・タウンのようかいたち
富安陽子 // 文 大島妙子 // 絵
【幼児～】



福音館書店 ¥1,320（税込み）

ここはヒュードロ・タウンの妖怪チビッコ園。たくさんの妖怪がいて可愛らしく、楽しそうな雰囲気。赤鬼先生がきちんと出欠を取るの、妖怪を知らないこどもたちにもわかりやすいです。歌って、遊んで、散歩して、よく遊び、よく学び、よく食べて、妖怪のこどもたちの保育園も、私たちの保育園と同じなんだなと楽しめる本だと思います。

そして、妖怪のこどもたちの特徴を、赤鬼先生はよく掴んでいて、その時々に対応が素晴らしい。絵だけを見ても楽しめる1冊だと思います。